

HuMA News Letter

HuMA-ジャワ島中部地震医療支援活動 に対する評価活動を実施

2007年2月10日から17日にかけて、HuMAインドネシア訪問団（鶴飼理事長、中田理事、松阪理事、石井看護師、三谷看護師、藤井調整員の6名）が、ジャカルタ、ジョグジャカルタを訪問しました。今回のミッションの目的は、①2006年6月にHuMAが実施したジャワ島中部地震救援医療活動に対する評価活動 ②タムリンヘルスケアグループとの協定書に基づく、第1回プロジェクトである合同災害医療セミナーの開催 ③同時期に開催している、JICA集団研修コース「救急・災害医療セミナー」のフォローアップセミナーへの参加 ④訪問時期直前に発生したジャカルタ市の洪水災害に対する医療支援 などでした。

活動内容・経過

① HuMAジャワ島中部地震救援医療活動の評価について

評価活動については、調査チームを2班に分けて実施しました。モバイル活動の調査を中田・石井・鶴飼が、病院調査を藤井・三谷・松阪が行いました。モバイル活動の評価は、当時の活動報告書を根拠にモバイル診療が実施された村落を特定し、その保健センター（プスケスマス）を目指しましたが、結果的にこの手法には大きな問題点がありました。災害直後にはPOSKOといわれる地域援護センターが臨時開設され、HuMAのモバイルチームはそこで診療活動を行いましたが、POSKOは概ね2ヶ月以内には解散しており、そこでの活動をフォローすることは不可能でした。モバイル診療活動は、実際にはカウンターパートであるタムリングroup医療チームとのコラボレーションで行われました。タムリン職員のHuMAチームへの評価は非常に高く、異口同音に医療レベルが高かったこと、誠実な対応をしていたこと、を賞賛していました。また同じような機会があればぜひ一緒にやりたいとの感想を述べられました。



バンツール周辺の復興状況

病院調査では、医療機器の供与に関して問題があったことが分かりました。供与した医療器具については、サルジド病院（大学病院）ではきちんと管理して下さったようですが、ベテスタ病院では全く利用されていませんでした。モバイル診療活動の拠点にしていたカリマサダ病院（有床診療所）では、日本語表記の医薬品がそのまま使われずに残っており、今後のHuMA活動におけるドネーションにおいては十分に留意する必要があると思われます。また、活用できていない医療器具について再度使用法を指導しました。

HuMAチームが6月にベテスタ病院で整形外科手術指導をした重症下肢外傷の症例に出会うことができました。障害は残っているものの、切断は無事免れて想像以上の回復を示しており、急性期手術支援など当時の病院医療支援活動の成果を垣間見ることができました。



プスケスマスへの訪問調査



今回遭遇することができた、右下肢の重症外傷後の症例（66歳・女性）



左症例の手術時の様子と富岡医師（2006年6月撮影）



現地で発生していた洪水被災者のために大幸薬品（株）より正露丸の提供を受けて、タムリングroupの巡回診療に利用されました。

② タムリン・HuMA合同災害医療セミナー

参加者総数は約80名でした。タムリンの外部からは、インドネシア保健省、WHO、インドネシア赤十字、そしてインドネシア外科学会の重鎮Dr. アリオノの出席があり、インドネシア側の災害医療に対する関心高揚の一つのきっかけになったと思われました。たまたま生じていた洪水災害もこのセミナーに対する関心を高めさせた様子でした。ことにインドネシアではナースの病院における地位、社会における地位がまだ高くはなく、その点が被災者ケアの問題としても残っていますが、まだインドネシアのナース自身の関心も高くはないようでした。



タムリン・HuMA合同災害医療セミナー

③ JICA フォローアップセミナー

インドネシアから6名の他、韓国、マレーシア、タイ、フィリピン、トルコ、パキスタンからの参加があり、アジア地域での災害対応のcapacity building、国際医療協力について熱心に討議が繰り広げられました。HuMAもNGO代表という形でこの会議に参加しました。



JICAフォローアップセミナーへの参加と、
中田理事の発表風景

④ ジャカルタ市洪水被災者支援

現地でちょうど発生していた洪水被災者の為に大幸薬品(株)から正露丸の供与を受け、タムリングループの巡回診療に利用されました。洪水被害者の3大症状が上気道炎、下痢、皮膚疾患ということで、正露丸とオイラックス軟膏は3日間で供与したものの半数以上が消費されました。多くの人が避難生活を余儀なくされていましたが、混乱はなく、日本からの医療支援派遣は不必要であることを確認しました。



浸水した高さまで壁が変色していた

以上、実質5日間の窮屈な日程でしたが、
非常に有意義な活動ができました。

能登半島地震での活動

3月25日におきた能登半島沖地震の被災者支援の為に、二宮医師、山崎看護師、二人のHuMA理事が現地に赴き避難所などでの巡回診療を行いました。

ケニアにおけるソマリア難民の調査への医師派遣について

この度、(財)アジア福祉教育財団 難民事業本部による「ケニアにおけるソマリア難民の調査」(期間4/7～4/14)にHuMAの 金田理事が派遣されました。近日中に報告会を開く予定です。

国際災害看護研修を開催します (2007年6月15日～6月17日)

日本医科大学千駄木キャンパス(東京都文京区千駄木1-1-5)にて、平成18年度HuMA災害研修一国際災害看護Iを開催します。申し込み・問い合わせは下記までお願いします。詳しくはHuMAホームページをご覧ください。

会員募集・寄付金のお願い

HuMAでは本会の活動方針にご賛同いただける会員・賛助会員及び活動資金の寄付金を随時募集しております。資料請求は下記サポート事務局までお気軽にお問合せ下さい。

寄付金受付先

【銀行】

みずほ銀行 根津支店 普通預金口座 8010278

特定非営利活動法人 災害人道医療支援会 理事長 鶴飼 卓

【郵便局】

口座No. 00190-6-569149

口座名: 特定非営利活動法人 災害人道医療支援会

ただいまの会員数

310名(内賛助会員61名)

(2007年3月現在)

発行＝特定非営利活動法人災害人道医療支援会

連絡先＝サポート事務局 〒154-0024東京都世田谷区三軒茶屋1-22-7BTS三軒茶屋602号

TEL/FAX:03-3413-7510 Email: info@huma.or.jp ホームページ http://www.huma.or.jp